
僕が死ぬまでの三日間 1

だいふく

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕が死ぬまでの三日間 1

【Nコード】

N52190

【作者名】

だいふく

【あらすじ】

「僕を殺してくれない？」

「今から三日後のこの時間に僕を殺してくれないか？」

僕はそう言つて煙草の煙を吐いた。僕の口から放たれた煙は、しばらく宙を舞い、停滞し、そして消えていった。

「いいわよ。」

彼女は煙が消えるのを見ながら答えた。

「素敵ね、自分の死ぬ時を決めるなんて。」

僕はにつこりと微笑み、煙草の灰を落とした。

「でもなぜ三日後なの？」

「別に。ただなんとなくさ。決めた期間が長いほどその途中で死んでしまう確立が上がるからかな。」

「じゃあ」

彼女はゆっくりと近づいてきて僕の首に手を掛けた。

「今すぐ殺してあげましょうか？」

「ああ、それでもかまわないよ。」

彼女の手が微かに締まる。

僕は目を閉じて彼女が首を絞めやすいように上を向く。

さあ、少し予定が狂ったけれどもこれが僕の求めていた瞬間だ。死の瞬間。

それを自分で決めてゆっくりと味わう。

こんなに贅沢な瞬間があるだろうか。

けれども僕の意味に反して彼女の手は僕の首から突然離れた。

僕は目を開けた。

「分かったわ。それじゃあまた三日後のこの時間に。」

彼女はそう言つて少し笑いながら僕に背を向けゆっくりとその場から去っていった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5219o/>

僕が死ぬまでの三日間 1

2010年10月26日06時34分発行